

## 中国語時事作文について —日本語との対照から見た特徴・誤用—（Ⅱ）

藤 田 昌 志

分析写作汉语时事作文的特征与误用情况  
—与日语相对照对其特征和误用进行分析—Ⅱ

FUJITA Masashi

### 《摘要》

本文针对母语为日语的汉语学习者，分析其写作汉语时事作文的特征与误用情况。本文的独创性在于与日语相对照对其特征和误用进行分析。一直以来，与一般的汉语作文相比，汉语时事作文难度更大，大学课程等也没有教授与此相关的内容。今后，在客观的分析研究的基础上，应开设汉语时事作文的课程。若本文可以成为其基础研究之一，实乃荣幸之至。本文采用的用例和误用例来自《周刊中国语世界》（日中通信社）＜日文中译讲座＞の№ 28（1998.10.15 日号）～№ 319（2004.9.30 日号）。（用例等最后括号内的数字表示刊登の№。）本文分为两部分进行分析和论述：2. 与日语相对照看汉语时事作文的特征，3. 与日语相对照看汉语时事作文的误用。

### 3.1.2 口語 / 文章語の違いによる誤用（(6)（数字は採集した用例数。以下同じ。）

（12）多摩動物公園はこれまで飼育しているチンパンジーに自動販売機でジュースを  
買わせるなど、人類の進化の過程を探ってきた。（256）

多摩动物公园直到目前一直让饲养中的黑猩猩用自动售货机买果汁什么的（（变）  
等），从而试探了人类的进化过程。

（12）の“什么的”は口語、話しことばであり、不適であるから、文章語、書きことばの“等”  
に変えなければならない。次の誤用も同種のもので口語を文章語に変えなければならない。  
「こうした団体（注：「少林寺」を名乗って活動するニセの「少林寺」）は岩石割りなど本  
来は行わない演武を披露する。」→“这些团体表演打碎岩石等本来（（变）原本）不进行的  
武艺。”（257）、「新型肺炎被害が浸透する中国に、義捐金を贈る日本メーカーが相次いで  
いる。」→“对于非典型肺炎不断蔓延的中国，日本厂商一个接一个（（变）相继）地赠送捐  
款”（261）、「（サクランボの）被害は（中略）数十キロから多いときは500キロが一晩で  
盗まれている。」→“遭受损失的～一夜几十公斤，最多的时候500公斤被偷（（变）盗）。”（264）、

「(国民の 67.2%が日常生活で不安や悩みを感じているが)2002 年 6 月の前回調査より 3.9% 増えて過去最高となった。」→“ 这比 2002 年 6 月进行的上 ((变) 前) 次测验增加了 3.9%, 成为最高纪录。” (272)、「(アテネオリンピックは) 8 月 13 日の開会式を前にメインスタジアムの工事がほぼ完成し、ギリシャ文化省からオリンピック組織委員会への引き渡しを控えた館内システムの最終テストが行われている。」→“ (雅典奥运会) 在 8 月 13 日的开幕典礼之前, 大型体育场的建筑工程大略完工, 并且正在对由希腊文化省交给 ((变) 提交给) 奥运组织委员的馆内系统进行最后的检验。” (315)。すべて下線部の口語的表現を (変) の次の文章語的表現に改めなければならない。口語／文章語の相違は作文の際に注意しなければならない一大ポイントであると言える。

### 3.1.3 動詞＋目的語の組み合わせ (“搭配”) の違いによる誤用 (4)

動詞と目的語の組み合わせ (“搭配”) の違いによる誤用をなくするには中国語文を大量に読み、書きことばの教養を身につけるしかないのかも知れない。日本語に比べて、中国語は「書く」のが難しい (成語をちりばめたり、格調のある語を使わなければならない比率が圧倒的に高い。日本と中国の小学校の国語教科書を比較してみればそのことがよくわかる。) が、一つにはこうした動詞と目的語の組み合わせの知識や今まで扱った誤用を生じさせないための中国語についての教養が必要であるからだと言える。「話すように書く」だけでは中国語の文章にならないのである。次のような動詞と目的語の組み合わせの違いによる誤用があった。

「食糧庁を廃止する」→“废止 ((变) 废除粮食厅)” (213) (注: “废止” は“政策・措施”を目的語にとり、“粮食厅”などの“机构”は“废除”の目的語となる。), 「通行料金を取る」→“接受 ((变) 收取) 通行费” (236) (注: “接受”は「相手が差し出してきたものを受け取る」のであり、“收取”は「決まりに従って (通行料金などを) 取る」ことを表す。), 「少年事件や薬物事件の捜査を担当する」→“担负 ((变) 担任) 少年案件和药品案件搜查工作” (280) (注: “担负”は“重任”や“使命”を目的語にとる。“工作”を目的語にとるのは“担任”や“负责”), 「こんな重要なポストにつかないというのは理解できない」→“抛弃 ((变) 放弃) 这么重要的职务, 真不能理解他。” (306) (注: 抽象的な事象 (権利、主張、意見、ポストなど) を「捨てる」際には“放弃”を使用する。)

### 3.1.4 その他の誤用 (5)

その他の誤用として、まず、表現の相違による誤用がある。日本語表現の機械的直訳、機械的対応によって次のような誤用が生じる。

- (13) 中国武術の「少林寺」の商標権を侵害する団体が世界中に氾濫しているとして、本家本元の河南省嵩山の「少林寺」が「鬭争」を繰り広げている。(257)

作为 ((変) 对于) 在世界上不断出现侵犯中国武术“少林寺”商标权的团体, 正宗河南省嵩山“少林寺”正在展开有关“斗争”。

(13) は「～として」を機械的に“作为”とした誤用例である。日本語の意味から考えて、「～に対して」と同じ意味であるから“对于～”にしなければならない。次の誤用も機械的直訳によるものである。「22 日、小泉首相が一昨日にひき続き二度目の北朝鮮訪問を行い、金正日総書記と会談した。」→“22 日、小泉首相接着 ((変) 继) 前年之后对北朝鲜进行第 2 次访问, 并与金正日总书记进行了会谈。”(307) (注: “接着”は「その次に」の意味。「ひき続き」は“继……之后”の方が適当。)

次は共起関係に関する誤用である。「従来は(留学生の)入学後の 10 月頃に(奨学金の)対象者を決めていたが、～」→“将从来 ((変) 过去) 在入学后 10 月份左右决定奖学金获得者的名单, ～”(210) (注: “从来”は後に否定形が来るので不適。)

文中の位置に関する誤用もあった。「WHO が個別の症例について「人から人への感染の可能性」に公式に言及したのは、今回が初めて。」→“WHO 就个别病例正式提出“有从人到人传染的可能性”, 这次还是初次的 ((変) 第一次)。”(292) (注: “初次”は文末に使わず、“第一次”“首次”は文中、文末のいずれにも使うことができる。)

最後は品詞の相違に関する誤用である。「今回の統合については、UFJ 傘下の信託銀行との経営統合協議を行っていた住友信託銀行が、東京三菱と UFJ の統合交渉差し止めを求める仮処分申請を行っている。」→“与 UFJ 集团控制的信托银行进行经营合作协商 ((変) 有经营合作协议) 的住友信托银行申请暂时措施, 要求阻止东京三菱集团与 UFJ 集团的关于经营合作的协商。”(316) (注: “协商”は動詞で名詞の用法はない。名詞の“协议”に変える。)

### 3.2 「加訳」関係の誤用 (23)

「加訳」関係の誤用としてまず、あげられるのは、日本語では特に表現されないが、中国語では、習慣上やより生き生きとした表現にするため付加すべき語が付加されなかった場合の誤用である。

- (14) ふだんは年間 50 ～ 60 個の販売数だが、今年は直径 26cm の火星儀が 250 個も売れたという。(270)

“听说，平时年销售量为 50 至 60 个，但是今年直径为 26 厘米的火星仪（（加）竟）销售了 250 个。”

“竟”以外には“不由得”“再说”なども同様の理由で付加される<sup>(9)</sup>が、他の誤用例としては“结果”(56)、“依然”(63)、“无济于事”(74)、“一直”(136) (315)、“至今为止”(173) (290)、“其中”(184)などが付加されない例が見られた。いずれも付加することによってより生き生きとした表現にし、習慣上のルールに従わなければならない。

(15) 中国の江沢民国家主席が 4 月 12 日、イスラエル入りし、中東各国・南アフリカの歴訪を開始した。1992 年に国交を樹立したイスラエルへの中国国家元首の訪問は初めてで、～ (108)

中国国家主席江泽民 4 月 12 日, 到达以色列, 开始了对中东有关国家和南非的访问。  
（（加）这是）中国和以色列 1992 年建交以来中国国家元首的第一次访问, ～

(15) は主語“这”を加訳しなければ誤用である。指示代詞“这”以外にも「ルイ・ヴィトンの日本での売り上げは約 1176 億円(2001 年)と同世界の約 3 分の 1 を占め、「大得意客」の日本での販売をさらに強固にしようという戦略だ。」→“路易威登在日本的销售额大约达到 1176 亿日元 2001 年, 占世界营业额的 3 分之 1 左右, （（加）新店铺的建立是）意图扩大在日本——这位“大主顾”的销售额而采取的战略。”(224) のように“新店铺的建立”のような主語を付加しなければ誤用になってしまう場合もある。主語の脱落は(14)の“竟”などの脱落に次いで多かった。また、名詞のトロ性の有無（中）などについても注意しなければならない<sup>(10)</sup>。

### 3.3 「転換」関係の誤用 (14)

「転換」関係の誤用は 3.3.1「非使役（日）→使役（中）」の「転換」に関する誤用（7）、3.3.2「受身（日）→非受身（中）」の「転換」に関する誤用（3）、3.3.3 その他の「転換」に関する誤用（4）、に分かれる。

#### 3.3.1 「非使役（日）→使役（中）」の「転換」に関する誤用（7）

日本語表現は非使役であり、それに対応する中国語表現が使役（中）になる際に、使役（中）にしなかったことによる誤用である。

(16) 為替相場が円安ドル高となったため原材料の調達コストが上昇し、今年 2 月には 80 円に値上げしていた。(217)

“ 由于外汇行情日元贬值美元升值, ((加) 致使) 原材料成本提高了。”

(16) は「為替相場が円安ドル高となった」ことを理由とする使役文(中)にしなければならない。中国語は誰が(何が)何をどうした(どうさせた)かをハッキリ述べようとする言語である(cf. 拙著(2007)『日中対照表現論』白帝社刊の第四章 転換(日→中)について の六-①事物中心(日)→人(動作主)中心(中)への転換(pp.97-98)の(逆の場合に比べての)圧倒的多さや三、使役と非使役(pp.85-94)の「非使役表現(日)→使役表現(中)への転換」の(逆の場合に比べての)圧倒的多さがその例証となる。)。同種の次のような誤用がある。「江西省で 3 月 6 日、小学校が爆発とともに崩壊し、教師・児童ら少なくとも 41 人が死亡、27 人が重軽傷を負った。」→“3 月 6 日江西省的一所小学生发生了爆炸并引起了校舍倒塌事故。事故((加)使该校)导致学生和教师, 其中至少有 41 人死亡, 27 人受伤。”(152)(注:“使该校”を加えて使役文にする。), 「冷戦終結で、スイス国民の考え方も変化しつつある。」→“冷战的结束((加)使)瑞士国民的想法正在逐渐发生变化。”(198), 「スタンドと選手の一体感を強く感じ、半世紀近く前になるが、甲子園を目指していた頃を思い出した。」→“我深刻感到观众和运动员融为一体, ((加)这让我)想起了半世纪以前以参加甲子园比赛为目标而努力的时期。”(222), 「設営された会場の部屋の中は、照明を暗くすることで、ホテルが夜の時間帯と感じ、飛び立つなどして盛んに発光する作りになっている。」→“被设置的会场中, 采用照明昏暗的方法, ((加)从而使)萤火虫感觉是在夜里, 于是他们便飞舞起来, 活跃地发光。”(266)。いずれも“使”や“让”、“从而使”、使役の対象((152)の“该校”、(222)の“我”)、“这”を加えることによって誤用例でなくなり、日本語の非使役(日)と正しく対応する使役(中)となる。

### 3.3.2 「受身(日)→非受身(中)」の「転換」に関する誤用(3)

2.1.2 「受身(日)→非受身(中)」の「転換」、で考察したことをここでは誤用の観点からとりあげる。意外と誤用の数は少なく次のようなものがそれである。「韓国で開催された野球のシドニー五輪予選を兼ねたアジア選手権」→“在韩国举办((变)举行)的棒球亚洲冠军赛暨悉尼奥运会预选赛”(79)(注:厳密には“举办”と“举行”の使用上のまがいであるが、意味的には「受身(日)→非受身(中)」の「転換」に関する誤用であるのでとりあげた。), 「湖南省竜山県里耶で、秦代のものと見られる竹簡、約 2 万枚が発見された。」→“在湖南省龙山县里耶((加)发现了约 2 万块)秦代((削)的约 2 万块)竹简

((削) 发现了)。”(218) (注: ((削) A) は A を削除することを意味する。この誤用は“发现”等の語の位置の誤用であるが、意味的には「受身(日)→非受身(中)」の「転換」に関する誤用であるのでとりあげた。)、 「文化庁が調べたところ、壁画が発見された 1972 年当時に比べ石室内の温度が年間平均で 2 度上がっており、～」→“文化厅对壁画进行调查后发现, 跟((削)被)发现该壁画的 1972 年相比, 石室里的年平均温度上升了 2 度, ～”(249) (注: 「発見された」(日) をそのまま“被发现”(中) としたための誤用である。) 誤用例を見ると、純粹に「受身(日)→非受身(中)」の「転換」に関する誤用、と言えるのは、(249) だけである。“举行”や“发现”といった語を使用した“存在句型”を使用する際には、「受身(日)→非受身(中)」になることを中国語作文学習者は理解しているようである。2.1.2 「受身(日)→非受身(中)」への「転換」で見たように学習者はこの種類の特徴について、ある程度の知識を身につけているようである。

### 3.3.3 その他の「転換」に関する誤用 (4)

2.1.1 名詞(日)→動詞(中)の「転換」、で見たように名詞(日)を動詞(中)に「転換」することは多いが、不思議とこれに類する誤用例はあまり見受けられない。もっとも次のような誤用例はあるにはある。「東北新幹線の開業や東京駅への乗り入れ」→“东北新干线((加) 的通车, 并)((削) 开业) 延伸到东京站”(78) (注: 学習者は「開業」をそのまま“开业”と直訳しているが、「東京駅への乗り入れ」は“延伸到东京站”と正しく動詞(V) を使った形にしている。)

問題は中国語作文は日本語から中国語への型の習得を基本とするが、その型が硬直化している場合に誤用が生じるということである。誤用を生じないようにするためには作文の型の究明、習得とともにまた、中国語自体についての教養、優れて、典型的な中国語の文章をより多く読み、中国語作文の基礎となる文章についての教養を身につけることが必要となるのではないだろうか。

### 3.4 「減訳」関係の誤用 (5)

(17) 関東の水がめ、利根川水系で 10 日、10%の取水制限が始まった。今のところ生活に大きな影響はないと見られているが、このまま少雨が続けば、各家庭への給水も一部制限されそうだ。(172)

从 8 月 10 日开始, 关东的水缸——利根川水系的水库实施百分之十的限制用水措施。目前此措施对生活还没有((削) 多大) 造成影响, 但如果持续不下雨的话, 看来会对((削) 不得不, 部分限制) 每个家庭((加) 限制) 供水。



(17) の「大きな」や「一部」は中国語表現では減訳した方がよい。そうしないと誤用例になってしまう。日本語表現の間接性、婉曲性と中国語表現の直接性の問題である。

この他、次のようなものも、減訳（削除）されないと誤用になる。「大陸の人口」→“大陸（（削）的）人口”（155）、「テレビ局からの利用や観光で年間 40 億円の収入を見込んでいる。」→“（（削）估计年間来自）电视台的租金及观光等年收入（（加）估计）可达 40 亿日元”（30）、「昨年 10 月から続けられていた北京の天安門広場の全面改修工事が終了し、～。」→“（（削）从）去年 10 月份开始的北京天安门广场的全面修复工程结束了，～”（68）、「パキスタンの首都、イスラマバードで 10 月 12 日、軍事クーデターが発生した。」→“十月十二日（（削）在）巴基斯坦首都伊斯兰堡发生政变。”（83）中国語から日本語を見ると助詞の使い方が難しいが、日本語から中国語を見ると冗長性を生まぬために助詞を減訳しなければならないのだから逆の難しさがある。その他の「減訳」関係のことがらについても注意する必要がある<sup>(11)</sup>。

### 3.5 その他の誤用（5）

「主会場」→“主（（削）要）会场”（65）は“要”を削除しなければならない。形式的には「減訳」の問題だが、語彙の日中語間の対応は難しく、一つ一つ押えていくしかないのであろうか。「世界初となる」→“属（（削）世界）首例”（76）も“世界”を削除しなければ語彙の誤用となる。「措置」→“措置（（変）施）”（100）（200）も“施”に変更しなければ誤用となる。「措置」は時事中国語作文でよく使用する語である。「全人代は日本の国会に相当し、15 日まで開催される。」→“（（削）全）人代（（加）会）相当于日本的国会，会议到（（削）举办至）15 日结束。”（103）。中国語では「15 日になって終了する。」という意味の表現にしなければならない。時間関係の表現の日中間のズレには注意を要する<sup>(12)</sup>。

日本語と中国語の表現のズレについても今後、類型化できるものは類型化していく必要があるであろう。同時に、類型化したものについて 3～5 例をすぐ挙げられる、言語感覚のすぐれたプロの中国語母語教師の存在も必要であろう。

## 4. 結語

以上、2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について、3. 日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について、と中国語時事作文について考察してきたが、日本語との対照から中国語時事作文を考察することによって、中国語時事作文の特徴として、名詞（日）→動詞（中）の「転換」（2.1.1）（17 例）や「受身（日）→非受身（中）」への「転換」（2.1.2）（11 例）が多く、中国語時事作文の誤用には、日本語とそれに対応する中

国語の関係が一对二 (又は多) の関係にある場合の誤用 (3.1) (56 例) (のうちのとりわけ意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用 (3.1.1) (43 例)) が多く、また、「転換」関係の誤用では、「非使役 (日) → 使役 (中)」の転換に関する誤用 (3.2.1) (7 例) が多いことが判明した。このことは動作主中心表現を好む中国語表現の一大特徴に帰因するものであると考えられる。3.1.1 については外国語学習の誤用が両表現の関係が一对二 (又は多) のときに、つまりは粗対密のときに生じるという当然のことを物語っていると言える。自分の方に引き寄せるより、相手の方に合わせる方が難しいのは人間関係と同じである。

**【付記】** 本稿は「中国語時事作文について—日本語との対照から見た特徴・誤用」と題して、日本中国語教育学会 2009 年度全国大会 (2009. 6. 7 於 愛知大学) で発表した内容をもとにして作成したものである。

**【注】**

- (9) 藤田 (2007) p.15
- (10) 荒川 (1992)。次のような誤用があった。「加訳 (日→中)」を行わなければ誤用となる。「日本、欧米など 10 カ国の映像作家 26 人が制作したコンピュータグラフィックスやアニメなどの作品が、63 店の売り場に並ぶテレビの画面に映し出されている。」→ “日本, 欧美等 10 个国家的 26 名影像制作作家制作的计算机图像及动画片等作品, 在 63 家商店的柜台 ((加) 上排列着的) 电视屏幕 ((加) 里) 播放。” (201) また、加訳 (日→中) の類型については藤田 (2007) pp.1-19 を参照されたい。
- (11) 藤田 (2007) pp.20-48
- (12) 藤田 (2007) pp.112-114

**【引用文献・参考文献】**

- (1) 藤田昌志 (2007) 『日中対照表現論 付：中国語を母語とする日本語学習者の誤用について』白帝社
- (2) 伊地智善継編 (2002) 『白水社 中国語辞典』白水社
- (3) 荒川清秀 (1992) 「日本語名詞のトロコ (空間) 性—中国語との関連で—」(大河内編集 (1992) 所収)
- (4) 大河内康憲編集 (1992) 『日本語と中国語の対照研究論文集 (上)』くろしお出版
- (5) 張麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉 20 例—』スリーエーネットワーク
- (6) 楊慶蕙編 (1993) 『現代漢語正誤辞典 (供外国人学漢語用)』北京師範大学出版社
- (7) 呉麗君等 (2002) 『日本学生漢語習得偏誤研究』中国社会科学出版社
- (8) 彭飛企画・編集 (2007) 『中日対照言語学研究論文集 中国語からみた日本語の特徴 日本語からみた中国語の特徴』和泉書院



## 〔追記〕

「2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について、3. 日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について、と中国語時事作文について考察してきたが、日本語との対照から中国語時事作文を考察することによって、中国語時事作文の特徴として、名詞（日）→動詞（中）の「転換」（2.1.1）や「受身（日）→非受身（中）」への「転換」（2.1.2）が多く、中国語時事作文の誤用には、日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二（又は多）の関係にある場合の誤用（3.1）（のうちとりわけ意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用（3.1.1））が多く、また、「転換」関係の誤用では、「非使役（日）→使役（中）」の転換に関する誤用（3.2.1）が多いことが判明した。このことは**動作主中心表現を好む中国語表現**の一大特徴に帰因するものであると考えられる。3.1.1については外国語学習の誤用が両表現の関係が一对二（又は多）のときに、つまりは粗対密のときに生じるという当然のことを物語っていると言える。自分の方に引き寄せるより、相手の方に合わせる方が難しいのは人間関係と同じである。」と4. 結語で述べたが、少し補足説明しておきたい。本稿で目論んだのは題目にあるとおり、「中国語時事作文について——日本語との対照から見た特徴・誤用——」を明らかにすることである。2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について、で名詞（日）→動詞（中）の「転換」（2.1.1）や「受身（日）→非受身（中）」への「転換」（2.1.2）が多く、3. 日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について、で中国語時事作文の誤用には、日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二（又は多）の関係にある場合の誤用（3.1）（のうちとりわけ意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用（3.1.1））が多く、また、「転換」関係の誤用では、「非使役（日）→使役（中）」の転換に関する誤用（3.2.1）が多いことが判明した、のであるが、**本稿のオリジナリティーは日本語との対照において「中国語時事作文の特徴」と「中国語時事作文の誤用の特徴」を明晰に分けて、明らかにしたことである。**こうしたオリジナリティーの重要性は強調しておきたい。例えば文法中心の教授法では「使役」や「受身」というテーマのもとに「使役」や「受身」の文法的、構文的特徴が教えられるが、その特徴は実際に使用される「使役」や「受身」の使われ方、語用論的、表現論的な観点からの「使役」や「受身」の様相の特徴と異なることと通底するものがある。また、教室で教えられる語学と町中で話される「自然な」ことばの相違にも通底するものがある。重要なことはどちらか一方では片手落ちであり、両方の局面を語学教育では扱わなければならないということである。そうした考えのもとに、**本稿で筆者が目論んだのは将来、行われるであろう、より高度な時事中国語作文の教育を見据えて、「中国語時事作文の特徴」と「中国語時事作文の誤用の特徴」を明晰に分けて、明らかにすることであった。**読者にはその点にご注意いただければ幸いである。

もっとも既述のように、2. 日本語との対照から見た中国語時事作文の特徴について、で名詞（日）→動詞（中）の「転換」（2.1.1）や「受身（日）→非受身（中）」への「転換」（2.1.2）が多く、3. 日本語との対照から見た中国語時事作文の誤用について、で中国語時事作文の誤用には、日本語とそれに対応する中国語の関係が一对二（又は多）の関係にある場合の誤用（3.1）（のうちとりわけ意味の違い、ニュアンスの違いによる誤用（3.1.1））が多く、また、「転換」関係の誤用では、「非使役（日）→使役（中）」の転換に関する誤用（3.2.1）が多いことが判明した、のであるが、それが一般の中国語作文とどのような関係にあるのかといった問題は残されている。中国語時事作文の特徴は一般中国語作文にもいえることなのか、中国語時事作文の誤用の特徴は一般中国語作文の誤

用にもいえることなのかといった問題である。こうした問題については今後、考察していく必要があるであろう。現状でいえることは「受身（日）→非受身（中）」への「転換」はより一般的にも言えることであり、「非使役（日）→使役（中）」の「転換」についても一般的によく見受ける現象である。それはとりもなおさず、日本語表現に比べての中国語表現の「非受身」表現の多さ、「使役」表現の多さを示唆しているのであり、逆もまた真で、日本語表現は話者中心性の表現を好むこともあり「受身」表現を中国語表現に比べて多用するし、反対に「使役」表現は中国語表現ほど好まず、「（原因）で～した」のような「非使役」表現を好む。

最後になるが（Ⅰ）の「追記」に続けて、同様な手法で一般（自由）中国語作文について少し述べてみたい。（Ⅰ）では次のようなことについて一般（自由）中国語作文に関して部分的ではあるが考察を行った。

まず、中国語らしい中国語の一般中国語作文は成語・成句・慣用句を多用することである。さらに「対」になるような、対照的な表現が多い。

他方、日本人の中国語作文は非常に説明調の作文となる。また“轰鸣”、“伴送”、“融入”といった書き言葉が使用されないから幼稚な感じがする。これは日本の中国語作文教育がその段階の作文で必要な書き言葉の語彙を明晰に教えていないことに帰因する。“轰鸣”、“伴送”、“融入”など、中国の文章や小説を読めば普通に出てくる言葉であるが、日本人学習者には使用が難しい。今後の中国語教育は、必須語彙について話し言葉と書き言葉の相違を初級段階から中、上級段階までシステマティックに教えていく必要があるであろう。

以上、述べたようなことは普通の中国語作文にいえることであるが、同様に時事中国語作文においても同様に「必須語彙について」「初級段階から中、上級段階までシステマティックに教えていく必要がある」といえるであろう。まず、時事中国語作文の必須語彙の選定から初級、中級、上級別に行う必要があるであろう。本当に、将来、時事中国語作文を授業として行うのならそれが最優先課題である。（（Ⅰ）の内容を要約。）

次に（Ⅰ）同様、監修 張一帆 榎本英雄（1999）『中国語作文伝授』日中通信社 に収録された一般（自由）中国語作文で、日本人対象に1998年12月、『週間中国語世界』が主催した「第1回全国中国語作文コンクール」で優秀賞に選ばれた羽岡智代氏の“挺有意思”的中国人”の一部について分析を行う。Aが羽岡智代氏の原文、Bが【模范文】（中国のベテラン文筆家が原文に沿った内容で執筆したもの。さまざまな形で中国人の発想と言語運用の実際が示されている。（p.31））である。（Ⅰ）同様、AとBを比べてみると、様々なことがわかって興味深い。まず、以下の作文を御覧いただきたい。

A

中国的商人虽然难对付,但是我也遇到了很多热情的中国人。在火车上,一起坐的人们给我们东西吃、缴我们玩扑克、告诉我们窗外看得见黄河等等。即使是商人也有热情、大方的。在乌鲁木齐一家饭馆,店员特意从厨房拿来了还没煮的饺子问,“饺子这么小,你们不再要几个吗?”而且付钱的时候没说什么就让价了。

款待外国人也许是很自然的事,不过中国人待客真的很热情。即使知道日本人有钱他们也请我们的客,不辞辛苦地教不懂汉语的我们种种事情,他们这样的态度使我非常感动。

## B【模范文】

中国的商人虽然很难对付，但是我也遇到了很多热情的中国人。在火车上，邻座的乘客知道我是日本人，会分给我零食吃，邀我一起打扑克，告诉我沿途风光。在餐馆吃饺子时，老板娘特意会从厨房拿一大盘来，说：“饺子这么小，你们不再多要几个吗？”我和朋友们欣然接受了她的好意，结账时发现她没另外多收钱。还有更多的中国人，不厌其烦地为不懂汉语的我解释种种事情，他们的诚恳态度使我非常感动。

AとB【模范文】を比べてまず、気がつくのはAが平板で話し言葉的で説明的であるのに対して、B【模范文】が“ 邻座 ” “ 沿途风光 ” “ 结账 ” “ 不厌其烦地 ” などの書き言葉を上手に使い、中国語らしい中国語作文になっていることである。どうしても外国語で作文すると「説明的」になる。これはどうしてかと言うと、「客観的」、「説明的」にしか書けないからである。その外国語の持っている重みのある語彙や表現を臨機応変に使えないから「説明的」になる。こうしたことを避けるには、中国語作文の初級、中級、上級の各レベルでの書き言葉の必須語彙と必須表現を提示し、その模範例文を何十、何百と読めるような教材を教師が提供することである。“ 付钱的时候没说什么就让价了。” としか書けず、“ 结账时发现她没另外多收钱。” と書けないのは学ぶ側がいけないのではなく、そうした表現を含む模範例文を何十、何百と提供していない側に問題があるのである。こうした問題は他の日本語教育にも言えることである。